

# 「グランド」や「ニュー」が付く ホテル名の日欧比較

— 1960～70年代日本のホテル屋号 (2) —

Comparison of Japanese and European Cases for Hotel Names included “Grand”  
or “New”. *Japanese Hotel Names in the 1960s and 1970s: Part 2*

河村英和  
Ewa KAWAMURA

## 要 旨

1960～70（昭和30～50）年代は、日本各地で新築ホテルの開業ラッシュが起こり、数々のホテルが誕生したが、その屋号の命名には、時代ごとの好みがあった。ホテルの所在地の地名に「観光」「国際」「温泉」「グランド」「ニュー」「ロイヤル」「ビュー」等といった特定の単語を組み合わせてつくることが多く、その幾つかはヨーロッパのホテルの命名法を踏襲している。しかし、ヨーロッパでそのような屋号が多く派生した時期と、日本での流行期には一世紀近くのタイムラグがあり、日欧で命名法が似たホテルでも、その建設時のコンセプトや建築様式やデザインの傾向は全く異なっている。前稿（パート1）では、地名に「ロイヤル」と「国際」等を組み合わせたホテル名の派生状況と事例を取り上げた。本稿（パート2）はその続きであり、18～19世紀ヨーロッパのホテルにおける、同系統の屋号の命名法を踏まえて、「グランド」と「ニュー」を含む屋号の傾向と派生期やその建築様式を日欧で比較する。なお、「ビュー」「パーク」「プラザ」「パレス」等を含む屋号のホテルは、次稿（パート3）以降で扱う予定である。

キーワード：ホテル、屋号、グランド、ニュー、建築

## 前号の「見出し」

本稿（パート2）を始めるにあたり、前号（パート1）の「見出し」（1. から2. の2-4. まで）を以下の通り列挙しておく<sup>\*</sup>。

### 1. はじめに

### 2. ホテル屋号の命名の変遷史：地名付きホテル名の日欧比較

#### 2-1. 具象名で命名された宿屋

#### 2-2. ホテル建築の概念の誕生と「王室（ロイヤル）」という屋号

#### 2-3. 国名・町名の付いたホテル屋号

#### 2-4. 「国際」を含むホテル名

#### 2-5. 「グランド」を含むホテル名

ヨーロッパにおいて「グランドホテル Grand Hotel」という屋号のホテルは、主要な町やリゾート地にはたいてい一つあり、町を代表する高級ホテルであることが多い。通常、その建物は19世紀半ばから1920年代ぐらいまでに建設され、その建築様式は、18世紀末から19世紀前半の初期のものは新古典主義様式で、19世紀半ば以降は折衷様式である。バルエポック期には、フランス風の屋根とイタリア風の外壁を混ぜたネオ・ルネッサンス様式がよく好まれ、一見宮殿かと思ふような豪華さを特徴とする。外観の壮麗さを演出するために、クーポラ（ドーム屋根）や急勾配のマンサード屋根を効果的に使うことも多く、その位置は中央に置いたり、両脇に一つずつ置いたり、角地に置いたりして、ファサードのシンメトリー性に華が添えられた。このようなグランドホテルという屋号に遜色ないように、高級ホテルらしさを表現した建築は、俗に「グランドホテル（様式）」<sup>1</sup> や、「パレス式ホテル」<sup>2</sup> と呼ばれるようになる（以下、本稿ではグランドホテル様式またはグランドホテル建築と記述する）。グランドホテル建築を呈するホテルが、必ずしも

---

<sup>\*</sup>本稿は、前号：河村英和「『ロイヤル』や『国際』が付くホテル名の日欧比較—1960～70年代日本のホテル屋号（1）」（『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第34号、2022年）の続きである。

1 Watkin, David, *The grand hotel style, in Grand Hotel*, London-Melborne, 1984, pp. 13-25.

Grand Hotel という屋号を持っているとは限らない。前号でテーマとした「ロイヤル Royal」ほか、「パラス Palace」、「インペリアル Imperial」、「マジェスティック Majestic」、「エクセルシオール Excelsior」、「サヴォイ（サヴォイア） Savoy (Savoia)」、「ヴィクトリア Victoria」などといった仰々しい単語を含む屋号でもよい。また、英国名に因む「ダングルテール D'Angleterre」や「グランド・ブルターニュ Grande Bretagne」「ウィンザー Windsor」「ブリストル Bristol」などがホテル名に入っている、その建物は華麗なグランドホテル様式建築が期待できる。ときには以上のような一単語だけで表現するには飽き足らず、「グランド・パラス」、「ロイヤル・パラス」、「ロイヤル・マジェスティック・サヴォイア」、「インペリアル・グランド・パラス」などと、2~3種類を複合して命名されることもある。

このようなタイプのグランドホテル建築が、最高級ホテルの様式美として確立されるのは<sup>3</sup>、英国では鉄道会社が率先してつくっていた駅前ホテル（または駅直結ホテル）において、壮麗な歴史主義的な建築様式が用いられたことによる。その初期の例は、新古典主義建築にルネサンス様式が加味された、ロイヤル・ウェスタン・ホテル Royal Western Hotel（1837-1839年、R. S. Pope 設計、1855年廃業）である。1833年、グレート・ウェスタン鉄道（Great Western Railway : GWR）が創設されたことを機に、ロンドンと南西・西部イングランドおよびウェールズの大半が結ばれ、貿易業の促進から最重要視されていた港町ブリストル Bristol の駅近くに、このホテルが建設されたのだ<sup>4</sup>。

大都市ロンドンの鉄道ホテルは、ロンドンで行われる 1851年と 1862年の万国博覧会の前後の時期に合わせて、次々とグランドホテル様式で建てられた<sup>5</sup>。開業年順に挙げると、パディントン駅直結のグレート・ウェスタン・ホテル Great Western Hotel（1851-54年、Philip Charles Hardwick 設計）<sup>6</sup>、ヴィクトリア駅直結のグロヴナー・ホテル Grosvenor Hotel（1862年、James T. Knowles 設計）、チャーリング・クロス駅直結のチャーリング・クロス・ホテル Charing Cross Hotel（1863-64年、E. M. Barry 設計）があり<sup>7</sup>、外観の躯体意匠はイタリア風ルネサンス、屋根形状はフランス風ネオ・ルネサンス様式のグランドホテル建築であるが、いずれも屋号に Grand はまだ含まれていない。屋号に Grand Hotel が入るのは、ミッドランド鉄道 Midland Railway がつくったセントパンクランス駅直結のミッドランド・グランド・ホテル Midland Grand

2 Schmidt, Michael, *Palast-Hotels. Architektur und Auspruch eines Bautyps 1870-1920*, Gebr. Mann Verlag, Berlin, 1982.

3 Pevsner, Nicolaus, *A History of Building Types*, Princeton University Press, Princeton, 1976, pp. 169-192.

4 Ivi., p. 179.

5 Denby, Elaine, *Grand Hotels*, Reaktion Books, London, 1998, pp. 48-53.

6 現在は外資系ホテルチェーン・ヒルトン傘下の Hilton London Paddington となっている。

7 現在は Amba Hotel Charing Cross として営業。https://www.amba-hotel.com/（2022年9月19日閲覧）

Hotel (1873年、George Gilbert Scott 設計) であり<sup>8</sup>、その建築様式は、ヴィクトリア朝時代、国家を代表する建築様式として支持されたネオゴシックだった<sup>9</sup>。

フランス・パリにおけるグランドホテル建築の増加も万博の開催がきっかけだった。パリ万博が開催される年の前後に集中して、規模の大きい豪華なホテルが続々と誕生した。ロンドンの駅直結型ホテルほど高級志向ではなかったが、パリでも各鉄道駅前にグランドホテル様式のホテルが開業していった。高級ホテルは、駅前ではなく街の中心部に集中し、まず1855年のパリ万博開催年に開業したのは、ルーヴル宮殿近くにてきたグランド・オテル・デュ・ルーヴル Grand Hôtel du Louvre (1855年、Armand, Mittorff, Pellechet et Rohault de Fleury 設計) だった<sup>10</sup>。パリによくある典型的なネオ・ルネサンス建築で、平面計画的には広大なサロンや読書室を備えたグランドホテル様式ではあるものの、ファサード意匠においては他のアパートマン建築との差別化はあまり図られていないが、規模が大きい高級ホテルであることの表明から、Grand を含む屋号で命名された初期の例となった。その一方、シンプルに「Grand Hotel」という言葉だけで命名されたパリ最初のホテルは、1867年の万博に向け、1862年に開業したオペラ座広場の「グランド・ホテル Le Grand Hôtel」(Alfred Armand 設計) である<sup>11</sup>。こちらも大規模な豪華ホテルであることには変わらないが、ファサードは、オスマン知事時代の典型的なパリのアパートマン建築の外観に合わせたものなので、宮殿のようにはみえない。1878年のパリ万博の年に開業したヴァンドーム広場近くの、「ホテル・コンティネンタル Hôtel Continental」(1878年、Henri Blondel 設計) も<sup>12</sup>、周囲の建物と一体化した新古典主義様式だ。エッフェル塔がお目見えした1889年の万博に合わせて開業した、サンラザール駅前の「ホテル・テルミヌス Hôtel Terminus」(1889年) の場合は<sup>13</sup>、ファサード中央のマンサード屋根が突出している点でグランドホテル建築らしいデザインが表現されている。そして1900年の万博と同年に開業したオルセー駅のホテル「パレ・ドルセ・グラン・オテル Palais d'Orsay Grand Hotel」(1900年、Victor Laloux 設計) でもって、屋号とともにようやく、複数のクーポラを駆使した、宮殿のようなグランドホテルというジャンルに相応しい外観のホテルが実現したのである<sup>14</sup>。

8 長年放置されていたが、2011年より「St. Pancras Renaissance London Hotel」として復活した。

9 このホテルのネオゴシック様式は、美術批評家ラスキン John Ruskin が書いた、ビザンチンゴシック様式のヴェネツィア建築研究の大著『ヴェネツィアの石 The Stone of Venice』(1851-53年)の影響下にあるヴェネツィア風ゴシックも加味されたものである。

10 現在は外資系ホテルチェーン・ヒルトンの傘下となり「Hotel du Louvre in the Unbound Collection by Hyatt」として営業している。

11 この建物には、有名なカフェ「Café de la Paix」も入居しており、現在は英国の外資系ホテルチェーンの傘下のもと「InterContinental Paris Le Grand」という名で営業している。

12 戦後一時期、英国のインターコンティネンタルの傘下となっていたが、現在はアメリカの外資マリOTT系列の「The Westin Paris Vendôme」となっている。同じヴァンドーム広場に、有名な「ホテル・リッツ Hotel Ritz」が開業するのは1898年で、1900年に万博に合わせたものだった。

13 2015年よりアメリカ外資のヒルトン傘下となり「Hilton Paris Opéra」として営業している。

つまりフランスの場合、外観ファサード面からいわゆるグランドホテル様式をもつホテルは、首都のパリよりも、むしろ海浜リゾートや温泉リゾート地で開花していったのだ。

建築類型としてのグランドホテル様式よりも、命名面での Grand Hotel のほうがじつは早かった。最初の「グランドテル Grand Hôtel」という仏語の命名は、宿泊施設のホテルではなく、おそらく壮麗な建物を意味する「オテル Hôtel」をさらに大規模にしたことによって形容詞「大きい grand」を冠した、全長 400 メートルに及ぶ巨大なりヨンの病院建築「グランドテル・デュー Grand Hôtel Dieu de Lyon」(1764 年、スフロ Jacques-Germain Soufflot 設計)である<sup>15</sup>。

ホテルにおいても Grand Hotel という屋号自体は、グランドホテル建築様式が派生する前からあった。付属語なしに単純明快に Grand Hotel という命名のホテルの初期の事例に、1768 年、考古学者で古代ギリシャ・ローマ美術研究の大家であるヴィンケルマン Johann Joachim Winckelmann が殺害されたトリエステの宿「グランデ・アルベルゴ(伊語で「大きいホテル」、あるいは「グランド・ホテル」を意味する)がある。それは、町の中心の広場である Piazza S. Pietro (現在の Piazza Unità d' Italia) に面しており、当時その広場は Piazza Grande (大広場)とも呼ばれ、そのような好立地にあってヴィンケルマンのような高名な人物が泊まる宿であれば、トリエステで最も良いホテルだったろう。しかし建物はそれなりに立派でも、まだグランドホテル様式建築ではない。ヴィンケルマンについて書かれた 1820-30 年代の書物のなかで、ヴィンケルマンが帰らぬ人となったホテルは小文字表記で grande albergo と記されており<sup>16</sup>、固有名詞を表す大文字で始められていないため、「グランド・ホテル」という屋号ではなく、最初は単に「大きなホテル」と呼ばれていた可能性も考えられる。しかし、ミラノで 1845 年に刊行されたイタリア旅行案内書では、トリエステを代表するホテルの一つとして「Grande Albergo」と大文字で紹介されており、屋号名として定着していることがわかる<sup>17</sup>。

一方、1840 年にブリュッセルで刊行された英国人向けのイタリア旅行案内書のなかでは、Grand Hotel を屋号に含む以下のホテルが紹介されている。

北イタリアのアローナ Arona の「郵便宿駅グランドホテル Grand Hotel de la Post」<sup>18</sup>、ミラノの「英国女王の(グランド)ホテル Grand Hotel de la Reine d'Angleterre (the Queen of England's

14 オルセー美術館としての開館は 1986 年。

15 ここが 2018 年よりショッピングモールを含む複合商業施設に転用されたさい、奇しくも 2019 年から外資系 (IHG: インターコンティネンタル) 高級ホテルが入居した。https://lyon.intercontinental.com/notre-histoire/ (2020 年 9 月 19 日閲覧)

16 Eiselein, Giuseppe, *Vita di Giovanni Winckelmann, in Opere di G.G. Winckelmann*, Tomo I, Giachetti, Prato, 1830, p. 139; *Il sepolcro di Winckelmann in Trieste*, Alvisopoli, Venezia, 1823, p. 146.

17 *Nuovissima guida del viaggiatore In Italia*, Ferdinando Artaria, Milano, 1845, p. 187.

18 Jousiffe, *Guide A Road-book for Travellers in Italy*, Second Edition, Meline, Cans and Co., Brussels, 1840, p. 7.

Hotel)』<sup>19</sup>、コモ Como の「モンテ・ディ・ブリアンツァのグランド・ホテル Grand Hotel del Monte di Brianza」<sup>20</sup>、パルマ Parma の「郵便宿駅グランドホテル (旧ロイヤル・ホテル・モデナ) Grand Hotel de la Post (late of the Royal Hotel Modena)」<sup>21</sup>、ボローニャ Bologna の「グランド・ホテル・スイス、郵便宿駅 (旧ロイヤル・インペリアル・ホテル) Grand Hotel Suisse, Posthouse, (formerly the Albergo Reale ed Imperiale, or Royal Hotel)」<sup>22</sup>、中部イタリアでは、ピサ Pisa の「ロイヤル・フッサール・(グランド) ホテル Grand Hotel Royal du Hussard (the Royal Hussar Hotel)」<sup>23</sup>、ルッカ Lucca の「グランド・ホテル・ロイヤル・ペリカン Grand Hotel Royal du Pelican」<sup>24</sup>、ラ・スペツィア La Spezia の「グランド・ホテル・ロイヤル・ド・ルニヴェール Grand Hotel Royal de l' Univers」<sup>25</sup>、セストリ Sestri の「グランド・ホテル・ド・ラ・ベル・ユロップ Grand Hôtel de la Belle Europe」<sup>26</sup>、ローマ Roma の「グランド・ホテル・ド・ルッシ Grand Hotel de Russie (the Great Russian Hotel)」<sup>27</sup>、ナポリ Napoli の「グランド・ホテル・デッレ・クロチェッレ Grand Hotel delle Crocelle」であるが<sup>28</sup>、いずれも Grand Hotel だけではなく、他の単語とも組み合わせられた複合的な命名がほとんどだ。英語で書かれたこのガイドブックでは、郵便馬車の起点となる「ポスト (郵便宿駅)」まで、高級ホテルの場合はフランス語で命名される慣例に従い、フランス語表記をしている。この本で紹介されるパルマの<sup>ポスト</sup>宿駅ホテルとは、前号で「ロイヤル」を付したホテルの初期の例で挙げたモデナの「Albergo Reale (Hotel Royal)」のことで、パルマとモデナを結ぶ幹線道路沿いにあった<sup>29</sup>。ボローニャのグランド・ホテルとは、19世紀のあいだイタリアで最も高級なホテルのひとつとして有名だったスイス人のブルン氏が経営するホテルで、15世紀の貴族の屋敷であるギジリエーリ館 Palazzo Ghisilieri 内に置かれ、町の中心の広場へ至る大通り沿いの立地で、当時は<sup>ポスト</sup>宿駅のすぐ近くでもあった<sup>30</sup>。ローマのグランド・ホテル・ド・ルッシも町を代表するホテルで、北イタリアへ馬車の発着地点であるポポロ広場 Piazza del Popolo に接した位置にある。ナポリのグランド・ホテル・デッレ・クロチェッレは、海を臨む景観を売りにした最初の高級ホテルで、19世紀前半までは町を代表する

19 Ivi, p. 25.

20 Ivi, p. 10.

21 Ivi, p. 33.

22 ボローニャでは、もう1件「黒鷹亭 The Black Eagle (Grand Hotel de l' Aigle Noir)」とフランス語名のほうで Grand を接頭語に付けているホテルが同書内で紹介されている。Ivi, p. 34.

23 Ivi, p. 161.

24 Ivi, p. 163.

25 Ivi, p. 170.

26 Ivi, p. 171.

27 Ivi, p. 71.

28 Ivi, p. 110.

29 河村英和「『ロイヤル』や『国際』が付くホテル名の日欧比較—1960～70年代日本のホテル屋号(1)」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第34号、2022年、p. 146.

ホテルのひとつであった<sup>31</sup>。以上、いずれも好立地にある町で最も良いホテルで、名に Grand が付いているものの、ホテル屋号が2カ国語で併記されている場合、双方の言語に Grand が伴っていないので、まだこの時点では Grand Hotel だけの屋号の普及は充分ではなかったし、Grand を付けることへの認識も曖昧だった。そもそもイタリアにおいて Grand が付く初期のホテルの多くは、既存の歴的建造物（貴族の屋敷や修道院）をホテルに転用したものであり、新築でのグランドホテル様式建築に Grand Hotel と命名される事例は、他のヨーロッパよりも半世紀ばかり遅れて派生するのである<sup>32</sup>。

一方フランスの場合、1827年に刊行された英国人向けのパリの観光案内書のホテル紹介欄には、まだ単独で「Grand Hotel」と称する屋号はなく、あくまで接頭語として Grand が付くホテルを6件（Grand Hotel de Bourbon; Grand Hotel Britannique; Grand Hotel de Castille; Grand Hotel de Londres; Grand Hotel de Rivoli; Grand Hotel de Tours）確認できる<sup>33</sup>。併記されている住所とその屋号本体の名から判断するに、規模が比較的大きい高級路線のホテルなのだろう。一方1839年に発刊された、パリ在住英国人が著したパリ案内書には、リシュリユー通り rue Richelieu 111番地に「パリのグランド・ホテル Grand Hotel de Paris」という、最もシンプルなグランドホテルの命名となる、所在町名と「グランド・ホテル」が組み合わさった屋号のホテルが紹介された。その説明文には、「このホテルは最近、最も華麗な様式で建設されたもので、豪華でエレガントな内装が施されており、品の良い旅行者のための住まいというよりもむしろ宮殿のような外観です *This hotel, which has lately been constructed in the most brilliant style, richly and elegantly furnished, presents rather the appearance of a palace than the residence of distinguished Travellers*」とあり、まさに建築的にもグランドホテル様式に合致した内容となっている<sup>34</sup>。このガイドブックには、ほかにも接頭辞に Grand が付く名のパリのホテル5件（Grand Hotel d'Angleterre; Grand Hotel des Colonies; Grand Hotel de Holland; Grand Hotel du

30 この建物は第2次大戦の爆撃で被災したためファサードは戦後につくられたものであるが、中庭側には当時の建物の壁面が部分的に残されている。Kawamura, Ewa, *Architettura alberghiera in Italia: dalla trasformazione degli edifici storici alla costruzione dei grand hotel*, in AA.VV., *Architettura per l'ospitalità in Italia tra Ottocento e Novecento a cura di Adele Fiadino e Guido Zucconi*, Gangemi Editore, Roma, p. 26.

31 このホテル「クロチェッレ」についての詳細は、Kawamura, Ewa, *Storia degli alberghi napoletani. Dal Grand Tour alla Belle Époque nell'ospitalità della Napoli «gentile»*, CLEAN Edizioni, Napoli, 2017, pp. 27-33.

32 河村英和「19世紀から20世紀初頭におけるヴェネツィアのホテル建築の変遷について—ヴェネト・ビザンチン様式の歴史的パラッツォ転用からグランドホテル様式建設まで」『日本建築学会計画系論文集73(629)』、2008年、pp. 1637-1642.

33 Planta, Edward, *A New Picture of Paris; or, the Stranger's Guide to the French Metropolis*, Samuel Leigh, London, 1827, pp. 92-95.

34 An English Resident, *The Indispensable English Vade Mecum, Or Pocket Companion to Paris*, English and American Library, Paris, 1839, p. 207.

Pavillon-D'Hanovre; Grand Hotel de Tours) が紹介されている<sup>35</sup>。ただし、現在も営業が続いているパリのグランドホテル式のホテルは、リシュリュエ通りの Grand Hotel de Paris でもこれらでもなく、さきに述べた「パリ万博開催以降に」開業したホテルの数々である。

ロンドン初のグランド・ホテルと命名されたホテルについては、1840年に刊行されたホテル経営者向けの冊子に、ロンドンの繁華街コヴェントガーデン Covent Garden にある「エヴァンズ氏のグランド・ホテル Evans's Grand Hotel」というホテルが記されている<sup>36</sup>。人名エヴァンズと一緒に含む命名で、建築的にはまだグランドホテル様式が確立されていない時代だが、グランド・ホテルという屋号が派生した初期の例の一つとして特筆したい。このホテルは、1773年にデイヴィッド・ロウ David Lowe という人物が開業した家族経営のホテルに遡り、後年エヴァンズほか様々な経営者の名を冠したうえで Grand Hotel と呼ばれるようになったが、1856年までには、高級感を示す Grand の名に相応しくなくなったのか、「コヴェント・ガーデン・ホテル Covent Garden Hotel」と、所在地名だけが付いた屋号に改名されている<sup>37</sup>。建築レベルでのグランドホテル様式でのロンドン初のホテルは、さきに述べたパディントン駅のグレート・ウェスタン・ホテル（現 Hilton London Paddington）（1854年）であるが<sup>38</sup>、駅直結型立地ではないグランドホテル様式でのロンドン初のホテルは、イタリア風ネオ・ルネッサンス建築にフランス風の屋根が付いた「ランガム・ホテル Langham Hotel」（1865年、Lucas Brothers 社と John Gils 設計）とされている<sup>39</sup>。

ヨーロッパで起こった潮流に従って、町を代表する高級ホテルに「グランド・ホテル」と命名した日本の最初期の事例は、横浜に1870（明治6）年に開業した「グランド・ホテル」である（図1）<sup>40</sup>。折衷的な西洋の建築様式でシンメトリカルなデザインであるが、1923年の関東大震災で倒壊したため現存しておらず、日本においては、「グランド・ホテル」という名を冠し、かつ西洋的なグランドホテル様式に沿った戦前築のものは、1件も残っていない。

日本では、戦前の横浜のような「・」で区切った「グランド・ホテル」ではなく、続けて記述

35 Ivi, pp. 204-207.

36 *Rules and Regulations of the Hotel and Tavern Keepers' Provident Institution for the relief of necessitous and aged members*, H. Silverlock, London, 1840, p. 34.

37 *Evans's Supper Rooms, Covent-Garden. Selection and Words of Madrigals, Glees, Choruses, Songs, &c.*, Covent Garden Hotel, London, 1856, p. 16.

38 Andreas Augustin, *Meet you at Paddington: the Great Western Royal - Hilton London Paddington: the Story of the First Palatial Terminus Hotel*, Famous Hotels, Vienna, 2002.

39 当ホテルのオフィシャルサイトでは、ヨーロッパ初のグランドホテルとして紹介している。https://www.langhamhotels.com/en/the-langham/london/our-story/（2022年10月10日閲覧）

40 木村吾郎『日本のホテル産業史』近代文芸社、1994年、p. 34; p. 104。横浜の「グランド・ホテル」の前身となる同名のホテルが居留地20番に1870年に開業するが、これを解体新築したのが1873年から本格始動する「グランド・ホテル」である。澤護『横浜外国人居留地ホテル史（敬愛大学学術叢書3）』白桃書房、2001年、p. 101、p. 124.





図1 20世紀初頭の観光絵葉書にみる横浜のグランド・ホテルのファサード

する「グランドホテル」で定着するが、この命名が流行するピークは、1964年の東京オリンピックと1970年の大阪万博の前後の、高度経済成長期のレジャーブーム期である。温泉地の木造旅館が、鉄筋コンクリート造で建て替えたのを機に、洋風化・近代化したという意味合いで「グランドホテル」と改名することも多かった。そのため、本来ならば「グランドホテル」という命名が似合わない小さな町にも、日本では次々と「グランドホテル」が誕生していった。ヨーロッパの事例に比べると、本来のグランドホテル建築とは不釣り合いな建物で、あまりに安易にネーミングする事例も多々あり、すべてを漏れなく挙げるのは困難を極める。

日本で「グランドホテル」と称するホテルのほとんどが戦後に建てられたので、デザイン的にはモダニズム建築である。高度経済成長期に建設されたオフィスビル、市役所、学校建築などと区別がつかないようなデザイン・外観を呈するものも少なくない。公共建築によくあるような横長タイプのものでなく、ときには縦に伸びた7-8階で、鉄筋コンクリートの梁桁を可視化させて、昭和のロボットアニメを彷彿とさせるメカニクなデザインのホテルも散見されるのは、日本独自の特徴である<sup>41</sup>。最上階にスカイルームや回転展望レストランを設ける流行も、戦後昭和のグランドホテルの特異な一面だ。「グランドホテル」と命名するブームは1980~90年代のバブル期にも継続され、そのころになると名前がもっていた本来の威力がさらにチープ化され、駅前のビジネスホテルや簡易なホテルに対して「グランドホテル」と命名される事例も増えてくる。

41 じっさい日本で「グランドホテル」という名のホテルが次々と開業していった時代に、テレビアニメ『鉄人28号』（1960年）、『マジンガーZ』（1972-74年）、初代ガンダム『機動戦士ガンダム』（1979-80年）が放映されていた。



テル (1954年<sup>52</sup>)、支笏湖グランドホテル (1955年<sup>53</sup>)、阿寒グランドホテル (1955年<sup>54</sup>)、大阪グランドホテル (1958年<sup>55</sup>)、栃木グランドホテル (1959年<sup>56</sup>)、修善寺グランドホテル (1959年<sup>57</sup>)、つくばグランドホテル (1960年<sup>58</sup>)、(新潟の)湯沢グランドホテル (1961年<sup>59</sup>)、長崎グランドホテル (1961年<sup>60</sup>)、広島グランドホテル (1962年<sup>61</sup>)、有馬グランドホテル (1963年<sup>62</sup>)、グランドホテル向陽 (1963年<sup>63</sup>)、奥利根グランドホテル (1964年<sup>64</sup>)、岐阜グランドホテル (1964年<sup>65</sup>)、鴨川グランドホテル (1965年<sup>66</sup>)、伊香保グランドホテル (1965年<sup>67</sup>)、盛岡グランドホテル (1965

47 1984年に桜島の降灰被害によっていったん倒産し、のち「山下家」として復活したが、1988年でも度重なる火山の爆発の被害を受けたため、閉業した。「桜島熔岸観光、二度目の不渡り。」『日本経済新聞』九州版、1984年6月3日、p. 13.

48 群馬県四万温泉にて、その創業は500年前に遡る。ぐんま企業情報ナビ「有限会社田村旅館(四万たむら・四万グランドホテル)」<http://www.chuokai-gunma.or.jp/kigyoo/043.htm> (2022年9月17日閲覧)

49 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 255. 1968年に新築、1973年に増築され、現在は閉業している。

50 トクー!「ニセコ昆布温泉郷 旬の宿 ニセコグランドホテル」<https://www.tocoo.jp/detail/1001416> (2022年9月15日)

51 山梨県笛吹市の石和温泉にあった。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 180.

52 2021年に閉業した。ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑 1972年版』オータパブリケーションズ、1971年、p. 98; 「宇都宮グランド」破産手続き決定。『日本経済新聞』北関東版、2021年9月1日、p. 41.

53 1961年に別館が建設されたが、現存せず。支笏湖歴史年表(2016年4月1日版)<http://shikotsukovc.sakura.ne.jp/history/shikotsuhistory160403.pdf> (2022年9月17日閲覧)

54 Hokkaido Resort TSURUGA 鶴雅「鶴雅グループの歴史」<https://www.tsurugagroup.com/history/> (2022年9月15日閲覧)

55 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 279.

56 前身は割烹「萬里寿司」で、2013年から老人ホーム「グランドまりそう」を併設している。「栃木グランドホテル、一部を老人ホームに 来年1月開業」『日本経済新聞』北関東版、2022年7月23日、p. 41.

57 1959年に仲田屋旅館の別館として誕生した。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 187; 1993年には旅館「一修」と改名・新築され、現在は「宙SORA」となっている。伊豆修善寺温泉 登録有形文化財新井旅館ブログ「あらゐ日記」「昔の温泉場」2012年2月13日配信、<https://ameblo.jp/arairyokan/entry-11163680125.html> (2022年9月18日閲覧)

58 茨城県筑波山温泉にあり、その前身は1919年創業の米問屋「東郷商店」に遡る。つくば山水亭「100周年の記事」<http://www.sansuitei.jp/interview.html> (2022年9月17日閲覧)

59 1986年に改築。るるぶトラベル「湯沢グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/yuzawa/yuzawa-grand-hotel?cid=1839182> (2022年9月18日閲覧)

60 前身は1884年開業の洋食レストラン「精洋亭」で、1962年にホテル化した。清水建設福岡支店「長崎グランドホテル」『新建築』1962年8月号、p. 150. 2006年に閉業し、のち解体された。ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 369; 「長崎グランドホテル、来年1月メド解散。」『日本経済新聞』九州版、2006年10月12日、p. 14

61 ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 324. 1973年に新館が開業。1994年にリーガロイヤルホテル広島に継続され、広島グランドホテルは閉館、のち解体された。Tabetainjya 広島ニュース食ベタインジャー「懐かしき広島グランドホテル時代のメニュー、リーガ開業60周年記念で復刻」2015年2月17日配信 (2021年10月10日更新)、[https://tabetainjya.com/archives/nakaku1/60\\_2/](https://tabetainjya.com/archives/nakaku1/60_2/) (2022年9月17日閲覧)

62 老舗旅館「中の坊」の別館としてオープンした。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 218.

年<sup>68</sup>)、徳島グランドホテル偕楽園(1966年<sup>69</sup>)、鬼怒川グランドホテル(1966年<sup>70</sup>)、菊池グランドホテル(1966年<sup>71</sup>)、八戸グランドホテル(1966年<sup>72</sup>)、東山グランドホテル(1967年以前<sup>73</sup>)、洞爺湖グランドホテル(1967年<sup>74</sup>)、摩周グランドホテル(1967年以前<sup>75</sup>)、佐渡グランドホテル(1967年<sup>76</sup>)、皆生グランドホテル(1967年<sup>77</sup>)、道後グランドホテル(1967年<sup>78</sup>)、奥久慈グランドホテル(1967年<sup>79</sup>)、岡山グランドホテル(1967年<sup>80</sup>)、御殿場グランドホテル(1967年<sup>81</sup>)、北国グランドホテル(1967年<sup>82</sup>)、(名古屋の)名鉄グランドホテル(1967年<sup>83</sup>)、奥能登グランドホ

---

63 三重県湯の山温泉に、1955年にできた太陽工業の保養所に遡るが、1963年に増築してホテルとなった。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 196。

64 群馬県の湯檜曾温泉にあり、前身となる旅館は1931年に創業した。1990年代までに「おくとねグランドホテル」と改称、2007年に破綻し、現在は伊東園ホテルズ傘下の「ホテル湯の陣」となっている。「『ホテル湯の陣』破産申請、湯檜曾温泉、観光客の減少響く。』『日本経済新聞』群馬版、2007年4月11日、p. 43。

65 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 252。

66 江戸中期宝暦年間に創業した旅館「吉田屋」に遡るが、1965年に鴨川グランドホテルとして新築・改名した。鴨川グランドホテル「沿革」<https://www.kamogawagrandhotel.ne.jp/company/history/> (2022年9月17日閲覧)

67 1927年創業の木造旅館「伊香保館」が、1965年に「伊香保グランドホテル」として新築・改名した。「伊香保グランドホテル、4月末で閉館へ—宿泊数が半減。』『日本経済新聞』群馬版、2004年2月7日、p. 43。現在は伊東園ホテルズの傘下となっている。

68 1977年に岩手観光ホテルと改名された。ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 79。

69 1916年創業の旅館が前身で、1966年にホテル化、1974年に新館を増築し、2022年に倒産した。旬刊旅行新聞「偕楽園観光(徳島市)が自己破産申請へ(帝国データバンク)」2022年2月14日配信、<https://www.ryoko-net.co.jp/?p=103319> (2022年9月17日閲覧)

70 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 151; 鬼怒川グランドホテル 夢の季「会社概要」<https://www.kgh.co.jp/jp/company.html> (2022年9月16日閲覧)

71 熊本近郊の菊池温泉にあり、1990年に一部改築されたが、今でも往時の外観が残っている。るるぶトラベル「菊池グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/kumamoto/kikuchi-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月17日閲覧)

72 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 76。開業当時のモダニズム建築は残っていない。

73 福島県の会津東山温泉にあり、1991年に増築された。「会津若松の東山温泉、ホテルの増改築ラッシュ、高速道開通などで集客増期待。』『日経産業新聞』1991年11月15日、p. 19。2012年より大江戸温泉物語グループの傘下となっている。「『大江戸温泉』仙台に進出、3月開業、被災施設の運営受託—ノウハウ生かす。』『日本経済新聞』東北版、2012年1月25日、p. 2

74 1975年に閉業した。「三井観光開発、阿寒湖荘を東観へ売却—ホテル経営見直しの一環。』『日本経済新聞』北海道版、1985年11月10日、p. 1。

75 1979年に閉業した。「摩周グランドホテル」『東邦経済』1967年8月号、p. 120; 「三井観光開発、阿寒湖荘を東観へ売却—ホテル経営見直しの一環。』『日本経済新聞』北海道版、1985年11月10日、p. 1。

76 菊竹清訓建築設計事務所「佐渡グランドホテル」『新建築』1967年11月号、pp. 165-174; 朝日新聞社編、前掲書、p. 155。2019年に閉業した。

77 新館は1974年に建設された。中根滋「設計建設プロセスとインテリアの特色〈皆生グランドホテル〉」『月刊ホテル旅館』1974年6月号、pp. 55-57。

78 2002年に改築。るるぶトラベル「道後グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/matsuyama/dogo-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月17日閲覧)

## 「グランド」や「ニュー」が付くホテル名の日欧比較

テル高州園 (1967年頃<sup>84</sup>)、豊橋グランドホテル (1968年<sup>85</sup>)、山中グランドホテル (1968年以前<sup>86</sup>)、大船渡グランドホテル (1968年<sup>87</sup>)、グランドホテル浜松 (1968年<sup>88</sup>)、あわづグランドホテル (1968年<sup>89</sup>)、章月グランドホテル (1968年<sup>90</sup>)、平砂浦グランドホテル (1968年<sup>91</sup>)、白良荘グランドホテル (1968年<sup>92</sup>)、鳥羽グランドホテル (1968年<sup>93</sup>)、(福岡の)西鉄グランドホテル (1969年<sup>94</sup>)、福山グランドホテル (1969年<sup>95</sup>)、宝塚グランドホテル (1969年<sup>96</sup>)、京都グランドホテル (1969年<sup>97</sup>)、高知グランドホテル鈴 (1969年<sup>98</sup>)、蓼科グランドホテル滝の湯 (1969年<sup>99</sup>)、榑原グランドホテル (1969年<sup>100</sup>)、焼津グランドホテル (1969年<sup>101</sup>)、城崎グランドホテル (1970

---

79 1976年に増築され、2000年に廃業し解体された。「旧奥久慈ホテルを解体/河川公園整備に向け」『日本工業経済新聞』茨城版、2006年4月19日、<https://www.nikoukei.co.jp/news/detail/51815> (2022年9月16日閲覧)

80 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 313.

81 1991年に閉業した。「御殿場の大勝建設2回目の不渡り。」『日本経済新聞』静岡版、1991年12月27日、p. 6.

82 福井県の北陸トンネルの掘削工事で発見された、敦賀トンネル温泉にある。近畿日本ツーリスト「北国グランドホテル」<https://yado.knt.co.jp/st/S180026/> (2022年9月18日)

83 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 248. 2018年より、「ホテルこうしゅうえん」と改名されている。

84 1988年に増築された。「輪島観光開発、奥能登グランドホテル増築—ディスコにファクシミリ」『日本経済新聞』北陸版、1987年11月11日、p. 8.

85 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 238. このホテルは、1968年竣工の「名豊ビル」に入居しており、2011年閉館、2017年に解体された。

86 石川県の山中温泉で、1999年に閉業し、2005年より湯快リゾートの傘下となった「旧山中グランド、湯快リゾートが買収—低価格温泉旅館に改装。」『日本経済新聞』北陸版、2005年2月19日、p. 8.

87 1991年に閉業し解体された。「大船渡グランドホテル、清水建設が買収—リゾート型に全面建て替え。」『日本経済新聞』東北版、1991年1月8日、p. 24.

88 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 237.

89 石川県の粟津温泉にあり、2004年より湯快リゾートの傘下となった。「あわづグランドホテル、東愛産業が落札—北陸で買収3件目。」『日本経済新聞』北陸版、2004年4月22日、p. 8.

90 創業1934年の木造5階建ての旅館「章月」が、1964年に章月グランドホテルという名の新築を増築したもの。1967-68年に木造の本館を解体し、本館も鉄筋コンクリートのモダニズム建築となった。「増設計画中の章月グランドホテル」『東邦経済』、1967年8月号、p. 119; 「野口観光、章月グランドホテルを買収—定山溪温泉に初進出」『観光経済新聞』2018年4月11日配信、[kankokeizai.com](http://kankokeizai.com) (2022年9月17日閲覧)

91 「ドームと塔にスペイン風の意匠—平砂浦グランドホテル」『月刊ホテル旅館』、1968年7月号、pp. 9-13.

92 和歌山県南紀白浜温泉にて、1929年創業の旅館「白良荘」に遡り、1968年の新築を機に「白良荘グランドホテル」と改名した。白良荘グランドホテル「ホテルの歴史」<https://shiraraso.co.jp/history/> (2022年9月18日閲覧)

93 やど日本「鳥羽グランドホテル」、<https://www.ryokan.or.jp/inn/54400> (2022年9月18日閲覧)

94 広島県福山市にあったが、2003年に閉業・解体され、跡地にはイタリア風の外観を呈する結婚式場施設が建設された。「福山グランドホテル、跡地に大型結婚式場。」『日本経済新聞』広島版、2003年10月24日、p. 23; ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 351; 1972年、p. 385.

95 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 329.

年<sup>102</sup>)、グランドホテル太陽 (1969年<sup>103</sup>)、水島グランドホテル (1970年<sup>104</sup>)、むつグランドホテル (1970年<sup>105</sup>)、下関グランドホテル (1970年<sup>106</sup>)、島原グランドホテル (1970年<sup>107</sup>)、西村屋城崎グランドホテル (1970年<sup>108</sup>)、青森グランドホテル (1970年<sup>109</sup>)、川湯グランドホテル (1970年代<sup>110</sup>)、西条グランドホテル (1970年代<sup>111</sup>)、湯原グランドホテル (1970年代<sup>112</sup>)、十和田湖グランドホテル (1970年代<sup>113</sup>)、高松グランドホテル (1971年<sup>114</sup>)、岡崎グランドホテル (1971年<sup>115</sup>)、山形グランドホテル (1971年<sup>116</sup>)、鷺羽グランドホテル (1971年<sup>117</sup>)、恵那峡グランドホテル (1971

---

96 1913年創業の旅館「鳥家」の新館として誕生したが、2003年に廃業した。ブルドーザー工事「宝塚グランドホテル=TAKARAZUKA HOTEL」『近代建築』1970年2月号、pp. 105-108; 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 219; 「宝塚グランドホテル廃業。」『日本経済新聞』夕刊、2003年6月30日、p. 3.

97 ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 324.

98 1986年に増改築し、2010年頃閉業。格安ホテル KING「高知グランドホテル鈴」<https://yasuihotel.net/koti/0026.html> (2022年9月17日閲覧)

99 1920年代開業の旅館に遡り、1969年に新築・改名した。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 174.

100 三重県久居市の榊原温泉にあったが、1994年に破綻した。「榊原グランドホテル、2回目の不渡り。」『日本経済新聞』夕刊、1994年1月26日、p. 5.

101 『日本ホテル協会創設100年史』日本ホテル協会、2009年、p. 289.

102 1970年に旅館「西村屋」の新館としてオープンした。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 221.

103 千葉県南房総市白浜町にあり、2008年に改築された。るぶトラベル「グランドホテル太陽」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/tateyama/grand-hotel-taiyo?cid=1839184> (2022年9月18日閲覧)

104 岡山県倉敷市にあった。ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 317.

105 青森県の斗南温泉にあり、1997年に改築。るぶトラベル「むつグランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/mutsu/mutsu-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月17日閲覧)

106 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 334.

107 1952年創業の旅館「有明館」に遡り、1969年に「島原グランドホテル」と改名された。「島原グランドホテル〈島原〉」『月刊ホテル旅館』1970年7月号、pp. 33-35; 1991年の雲仙普賢岳の噴火災害によって閉館・廃墟となった。「島原の休業ホテルを支援、「復興」テーマにイベント—今夏、九州の芸術家ら。」『日本経済新聞』西部夕刊、1995年5月30日、p. 20.

108 江戸時代安政年間に遡る旅館「西村屋」が、1970年に新築したさいに「西村屋城崎グランドホテル」と改名した。1994年の改装によって「西村屋ホテル招月庭」と改名し、現在に至る。西村屋「城崎温泉1300年と西村屋160年の歴史」<https://www.nishimuraya.co.jp/kinosaki/special/> (2022年9月18日閲覧)

109 2010年に倒産、2014年に閉業、2017年に解体された。日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 290.

110 北海道・阿寒国立公園川湯温泉にあったが、1991年に倒産し、2006年に「グランドホテルアレックス川湯」と改称、2011年に閉業。2022年に解体予定。「小川観光が倒産—負債13億円」『毎日新聞』北海道版朝刊、1999年3月25日、p. 22; 廃墟探索地図「グランドホテルアレックス川湯」<https://haikyo.info/s/15553.html> (2022年9月16日閲覧); 北海道建設新聞社「弟子屈町川湯温泉地区で廃屋跡地の活用者公募へ」2022年6月8日配信、<https://e-kensin.net/news/148290.html> (2022年9月17日閲覧)

111 東広島市西条町に所在し、2008年ごろより休業し、現在は廃墟となっている。廃墟探索地図「西条グランドホテル」、<https://haikyo.info/s/9096.html> (2022年9月18日閲覧)

112 岡山県湯原温泉にあり、1997年に「湯原グランドホテル八景」、2000年に「八景」と改名した。貸し切り温泉! 「八景・コラム〜総括 (2)」[https://www.kashikiri-onsen.com/chugoku/okayama/yubara/hakkei\\_e02.html](https://www.kashikiri-onsen.com/chugoku/okayama/yubara/hakkei_e02.html) (2022年9月15日閲覧)

年<sup>118</sup>)、新潟グランドホテル (1971年<sup>119</sup>)、千葉グランドホテル (1971年<sup>120</sup>)、大分西鉄グランドホテル (1971年<sup>121</sup>)、磐梯グランドホテル (1971年<sup>122</sup>)、北陸グランドホテル (1971年<sup>123</sup>)、萩グランドホテル (1972年<sup>124</sup>)、湯村グランドホテル (1972年<sup>125</sup>)、大雪グランドホテル (1972年<sup>126</sup>)、西浦グランドホテル吉慶 (1972年<sup>127</sup>)、桐生グランドホテル (1972年<sup>128</sup>)、山代グランドホテル (1972年<sup>129</sup>)、浄土ヶ浜潮吹グランドホテル (1973年<sup>130</sup>)、奄美グランドホテル (1973年<sup>131</sup>)、草津グランドホテル (1973年<sup>132</sup>)、琴平グランドホテル (1973年<sup>133</sup>)、白船グランドホテル (1973年<sup>134</sup>)、青島グランドホテル (1973年<sup>135</sup>)、帯広グランドホテル (1973年<sup>136</sup>)、層雲閣グランドホテル (1973年<sup>137</sup>)、静岡グランドホテル中島屋 (1973年<sup>138</sup>)、徳之島グランドホテル (1973年<sup>139</sup>)、

113 1987年に同名のまま建て替えられた。「焼山温泉郷を再開発十和田開発、十和田湖・奥入瀬溪流の入口、ドライブイン皮切りに。」『日本経済新聞』東北版、1987年8月26日、p. 2.

114 ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 405.

115 Ivi, p. 298.

116 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 139.

117 「鶯羽グランドホテル〈鶯羽山〉」『月刊ホテル旅館』1971年7月号、pp. 24-28; 合建築事務所「鶯羽グランドホテル」『近代建築』1973年2月号、pp. 106-107.

118 恵那峡グランドホテル「会社概要」<http://www.enakyo.co.jp/company/index.html> (2022年9月16日閲覧)

119 1987年に改築された。ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 262; 新潟グランドホテル「会社概要」<https://www.ni-grand.co.jp/company/> (2022年9月17日閲覧) 1987年に改築された。

120 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 100; 1972年、p. 147.

121 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 291.

122 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 147. 福島県の磐梯熱海温泉の旧・磐光ホテル跡地に建ったが、1999年に閉業した。「磐梯グランドホテル閉鎖、名鉄、来年1月末で一収支改善見込めず。」『日本経済新聞』東北版、1999年9月10日、p. 24.

123 五井建築設計研究所「北陸グランドホテル」『近代建築』1971年7月号、pp. 118-120. 石川県片山津温泉にあったが、1997年に破産し閉業、2003年に解体された。「北陸グランドホテル、自己破産で保全命令、負債75億円。」『日本経済新聞』朝刊、1997年12月16日、p. 15; 廃墟探索地図「北陸グランドホテル」<https://haikyo.info/s/379.html> (2022年9月18日閲覧)

124 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 292. のち「萩グランドホテル天空」と改名され、2020年、新型コロナウイルスの感染拡大による経営不振で倒産した。「長州観光開発が自己破産を申請。」『日本経済新聞』中国版、2020年4月7日、p. 11. 現在は、高齢者介護施設「グッドタイムホーム・グランド萩」として使用されている。

125 兵庫県の湯村温泉にあった。熊田工務店「湯村グランドホテル」『近代建築』1972年3月号、pp. 116-117.

126 北海道の糠平温泉で、1953年に「大雪ホテル」として創業、1974年に増築され「大雪グランドホテル」に改名された。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 134.

127 愛知県の西浦温泉にある。西浦グランドホテル吉慶「女将ご挨拶」<https://www.kikkei.jp/> (2022年9月18日閲覧)

128 2011年に同設計事務所のデザインによって新築した。石井設計「お客様インタビュー」<http://www.is-ishii.jp/project/interview/002/> (2022年9月18日閲覧)

129 石川県山代温泉にある山代グランドホテルは、1956年創業の旅館「よろづや」の別館として、1972年に誕生した。よろづや観光株式会社「会社概要」<http://yorozuyakanko.jp/> (2022年9月17日閲覧); 1983年新館増築、1989年改築、1991年に「瑠璃光」と改名された。「山代グランドホテル、館名「瑠璃光」に27日営業再開。」『日本経済新聞』北陸版、1991年7月11日、p. 8.

和倉グランドホテル (1973年<sup>140</sup>)、(東京都港区芝の) 東京グランドホテル (1974年<sup>141</sup>)、古牧グランドホテル (1974年<sup>142</sup>)、瀬波グランドホテルはぎのや (1975年<sup>143</sup>)、水道橋グランドホテル (1975年<sup>144</sup>)、磐田グランドホテル (1976年<sup>145</sup>)、琵琶湖グランドホテル (1976年<sup>146</sup>)、あわらグランドホテル (1976年<sup>147</sup>)、御前崎グランドホテル (1977年<sup>148</sup>)、白木屋グランドホテル (1977

- 
- 130 岩手県宮古市崎嶽ヶ崎にあった。1970年代当時のパンフレット(筆者所有)に開業年が記載。1984年に新館を増築するも、翌1985年に倒産したが建物は現存。「和議適用を申請負債総額15億円、潮吹グランドホテル。」『日本経済新聞』東北版、1985年11月2日、p. 2; 廃墟探索地図「浜潮吹グランドホテル」<https://haikyo.info/s/651.html> (2022年9月16日閲覧)
- 131 岩井観光開発の経営で、1986年に同社の「徳之島グランドホテル」とともに休業。2011年に解体された。「観光客減少で、16日から奄美グランドホテルも休業。」『日本経済新聞』九州版、1986年1月9日、p. 13; 奄美大島ブログ「旧奄美グランドホテル解体中」2011年8月21日配信、<https://amami-blog.jp/blog-entry-2209.html> (2022年9月16日閲覧)
- 132 1988年に改装。2018年に解体され、跡地には共立メンテナンスのホテル「ラビスタ草津ヒルズ」がオープンした。Travel.mimo 国内宿予約「草津グランドホテル」<http://www.travel-mimo.com/j/stay/E/ec/kus/00000403/> (2022年9月18日閲覧); 「草津、宿泊新施設に沸く、景観整備で若者増加、共立メンテ、客室70のホテル、金みどり、地蔵の湯近くに。」『日本経済新聞』北関東版、2019年8月22日、p. 41.
- 133 前身は1961年創業の料理旅館「丸忠」。「「こんびら歌舞伎」で地域おこし、近兼孝休さん(ここが聞きたい)」『日本経済新聞』中国・四国特集、2005年4月6日、p. 33.
- 134 長野県松本市の白骨温泉にあり、1977年に改装。るるぶトラベル「白船グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/matsumoto/shirafune-grand-hotel?cid=1839115> (2022年9月17日閲覧)
- 135 るるぶトラベル「青島グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/miyazaki/aoshima-grand-hotel?cid=1839115> (2022年9月18日閲覧)
- 136 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 292.
- 137 北海道の層雲峡温泉で、1923年創業の温泉旅館「層雲閣」に遡り、本館の新築を機「層雲閣グランドホテル」と改名した。2022年、「層雲閣 Mountain Resort 1923」とリニューアルと同時に改名。層雲閣「歴史」<https://sounkaku.co.jp/history/> (2022年9月18日閲覧)
- 138 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 292.
- 139 1985年に閉業した。「徳之島グランドホテル、観光客減り来月10日で閉鎖。」『日本経済新聞』地方経済面 九州A、1985年12月5日、p. 13.
- 140 北陸中日新聞七尾支局編『わくら物語』中日新聞北陸本社、1981年、p. 139. 1983年に倒産し、1985年に「和倉米久」として復活したが、2010年に閉業し、のち解体された。「聴涛閣、七尾・和倉温泉に14日新旅館開業。」『日経産業新聞』1985年9月9日、p. 20; 廃墟探索地図「和倉米久」、<https://haikyo.info/s/11363.html> (2022年9月18日閲覧)
- 141 宗教法人曹洞宗が全額出資してできたホテル。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 161.
- 142 「グラビアー古牧グランドホテル(三沢市)」『月刊ホテル旅館』1974年2月号、pp. 36-39; 2008年から「古牧温泉青森屋」と改名され、2005年から星野リゾートの傘下の「青森屋」となった。「三沢奥入瀬観光、ホテル名称を変更。」『日本経済新聞』東北版、2008年2月6日、p. 2; 「星野リゾートが観光列車、青森、冬の集客の目玉に、地酒や祭りばやし生演奏。」『日経MJ(流通新聞)』2017年1月20日、p. 4.
- 143 Travel.mimo 国内宿予約「瀬波グランドホテルはぎのや」<http://www.travel-mimo.com/j/stay/II/ia/mur/00000618/> (2022年9月18日閲覧)
- 144 東京都文京区にあり、前身は割烹旅館で、1975年にビジネスホテル化した。2022年に閉業。水道橋グランドホテル「閉館(営業終了)のお知らせ」2022年7月26日配信 <http://www.hatago.co.jp/2022.0726.pdf> (2022年9月17日閲覧)



年<sup>149</sup>)、都井岬グランドホテル (1977年<sup>150</sup>)、野沢グランドホテル (1977年<sup>151</sup>)、知床グランドホテル (1977年<sup>152</sup>)、天人峡グランドホテル (1978年<sup>153</sup>)、湯郷グランドホテル (1978年<sup>154</sup>)、淡路島グランドホテル (1978年<sup>155</sup>)、善通寺グランドホテル (1979年)、昼神グランドホテル天心 (1980年<sup>156</sup>)、川棚グランドホテルお多福 (1980年代? <sup>157</sup>)、防府グランドホテル (1981年<sup>158</sup>)、長岡グランドホテル (1981年<sup>159</sup>)、伊万里グランドホテル (1982年<sup>160</sup>)、城島高原グランドホテル (1982年<sup>161</sup>)、埼玉グランドホテル (1983年<sup>162</sup>) 石巻グランドホテル (1983年<sup>163</sup>)、(別府温泉の) 鶴見園グランドホテル (1984年<sup>164</sup>)、船橋グランドホテル (1984年<sup>165</sup>)、沼津グランドホテル (1984年<sup>166</sup>)、南西グランドホテル石垣 (1984年<sup>167</sup>)、江陽グランドホテル (1985年<sup>168</sup>)、水戸グランド

---

145 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 294。静岡県磐田市に所在する。2022年に休業し、スカイルームを備えた塔状のモダニズム建築は解体され、2024年に新築・再開予定となっている。磐田グランドホテル「新ホテル建設工事による休業のお知らせ」<https://www.iwata-gh.co.jp/new/wp/archives/11567> (2022年9月16日閲覧)

146 かつては「雄琴グランドホテル」という屋号だった。

147 福井県芦原温泉にて、1919年創業の鮮魚店に遡る。「芦原グランドホテル隆泉荘一非宿泊客呼ぶ温泉施設 (戦略これで攻める)」『日本経済新聞』北陸版、2011年8月24日、p. 8

148 1983年に増築された。「御前崎グランドホテル、静岡県下有数のホテルに一新築の宴会棟が営業開始。」『日本経済新聞』静岡版、1983年7月1日、p. 6。

149 山口県の長門湯本温泉に所在した。1865年創業の旅館「白木屋」であったが、1977年に新築改名したが、2014年に破綻・閉業した。建物は解体され、2019年、跡地には星野リゾート界が建っている。「山口・湯本温泉破産の旅館、長門市、解体し土地取得へ。」『日本経済新聞』中国地方版、2014年9月11日、p. 11。

150 1934年創業の旅館「中村荘」に遡り、1970年に「都井岬グランドホテル」と改築改名された。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 261。

151 前身は1950年創業の野沢温泉ホテルであり、1977年の改築時に野沢グランドホテルと改名されて現在に至る。野沢グランドホテル「ホテルのあゆみ」、<http://www.nozawagrand.com/ayumi.html> (2022年9月18日閲覧)

152 1960年創業の桑島旅館に遡るが、1977年に知床グランドホテルと改名された。HITAKOBUSHI RESORT「Company:History」<https://www.kitakobushi.jp/company/> (2022年9月17日閲覧)

153 2011年に閉業し、現在は廃墟となっている。「天人峡のホテル、自己破産申請へ、震災や大雨被害響く。」『日本経済新聞』北海道版、2011年12月6日、p. 1。

154 株式会社 湯郷グランドホテル「会社について」<https://www.yunogo.co.jp/corp-about.html> (2022年9月15日閲覧)

155 2011年に廃業した。

156 2004年に改築。るるぶトラベル「昼神グランドホテル天心」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/iida/hirugami-grand-hotel-tenshin?cid=1839115> (2022年9月17日閲覧)

157 山口県下関市の川棚温泉にて、江戸時代天保年間に創業した旅館「於多福屋」に遡る。<https://www.kgh-otafuku.co.jp/> (2022年9月17日閲覧)

158 2015年に改築された。るるぶトラベル「防府グランドホテル」

<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/yamaguchi/hofu-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月17日閲覧)

159 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 296。

160 るるぶトラベル「伊万里グランドホテル」、<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/takeo/imari-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月18日閲覧)

ホテル (1986年以前<sup>169</sup>)、山口グランドホテル (1986年<sup>170</sup>)、秋保グランドホテル (1986年<sup>171</sup>)、北国グランドホテル (1986年<sup>172</sup>)、松柏園グランドホテル (1986年<sup>173</sup>)、安芸グランドホテル (1987年<sup>174</sup>)、市川グランドホテル (1987年<sup>175</sup>)、藤沢グランドホテル (1987年<sup>176</sup>)、坂出グランドホテル (1987年<sup>177</sup>)、立川グランドホテル (1987年<sup>178</sup>)、グランドホテル樋口軒 (1987年<sup>179</sup>)、鳴門グランドホテル鯛丸 (1988年<sup>180</sup>)、根室グランドホテル (1988年<sup>181</sup>)、小山グランドホテル (1988年<sup>182</sup>)、大金温泉グランドホテル (1988年<sup>183</sup>)、(秋田の)湯沢グランドホテル (1989年<sup>184</sup>)、小樽

---

161 1965年開業の「別府ニューグランドホテル」に遡る。1988年に後楽園ホテルグループの傘下となったことを機に「城島後楽園ホテル」となった。「後楽園スタジアム、予約業務を一本化へー4ホテルの集客力を強化。」『日経流通新聞』1988年12月6日、p. 4.

162 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 297.

163 Ibidem.

164 2001年に閉業し、のち解体された。廃墟探索地図「鶴見園グランドホテル」<https://haikyo.info/s/1228.html> (2022年9月17日閲覧)

165 2020年に閉業した。「千葉や船橋中心部、ホテル閉館相次ぐ、移動自粛で宿泊客大幅減、往来解除でも客足見えず。」『日本経済新聞』千葉版、2020年6月19日、p. 39.

166 るるぶトラベル「沼津グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/gotemba/numazu-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月18日閲覧)

167 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 297. 1989年より「ホテル日航八重山」と改名され、2017年より「アートホテル石垣島」となり現在に至っている。

168 1933年に仙台で創業した写真館に遡る。江陽グランドホテル「会社概要」、<https://www.koyogh.jp/corporate/> (2022年11月20日閲覧) ; 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 298.

169 1992年以降に閉業し、解体された。「水戸グランドホテル社長斉藤作松氏一景観生かしリゾート型目指す(ひと)」『日本経済新聞』北関東版、1987年9月3日、p. 4; 「水戸グランドホテル2回目の不渡り出す。」『日経産業新聞』1992年1月4日、p. 4.

170 山口県吉敷郡小郡町に所在する。「山口グランドホテル、小郡駅前」に4月25日にオープンし開発に弾み。」『日本経済新聞』中国地方版、1986年4月25日、p. 11.

171 「宮城県秋保町、ホテル新・増設ラッシュ続く、今・来月また2館。」『日本経済新聞』東北版、1986年10月2日、p. 24. 2002年に改築。Karakami Hotels & Resorts「HISTORY沿革」<https://www.karakami-kankou.co.jp/corporate/history/> (2022年9月15日閲覧)

172 北海道利尻島に所在する。「ながもり観光、離島ブームの利尻に国際観光ホテル。」『日経産業新聞』1986年5月20日、p. 13.

173 北九州市八幡西区に所在する。「サンレー、松柏園グランドホテル着工ー3年でさらに5ヵ所計画。」『日経産業新聞』1985年6月18日、p. 14.

174 「安芸グランドホテル、宮島の玄関口・大野町に4月24日にオープン。」『日本経済新聞』中国地方版、1987年4月19日、p. 11.

175 「新顔続々郊外型ホテルー地域密着の応接室(アーバンNOW)」『日本経済新聞』夕刊、1988年2月16日、p. 8.

176 2002年より「グランドホテル湘南」と改名して再スタートしたが、2014年に閉館し、解体された。カナコロ(神奈川新聞)「グランドホテル湘南 老朽化などで9月末に閉館 跡地活用は未定」2014年6月11日配信、<https://www.kanaloco.jp/news/economy/entry-48322.html> (2022年9月17日閲覧)

177 るるぶトラベル「坂出グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/marugame/sakaide-grand-hotel?cid=1839115> (2022年9月16日閲覧)

178 2020年より「ホテルエミシア東京立川」に改名された。「JR立川駅北口、立川グランドホテル開業。」『日経産業新聞』1987年9月4日、p. 4.

## 「グランド」や「ニュー」が付くホテル名の日欧比較

グランドホテル (1990年<sup>185</sup>)、網走グランドホテル (1991年<sup>186</sup>)、津田沼グランドホテル (1991年<sup>187</sup>)、奥入瀬溪流グランドホテル (1991年<sup>188</sup>)、(大阪の)八尾グランドホテル (1992年<sup>189</sup>)、出石グランドホテル (1993年<sup>190</sup>)、旭川グランドホテル (1994年<sup>191</sup>)、浜名湖グランドホテル (1994年<sup>192</sup>)、八代グランドホテル (1998年<sup>193</sup>)、(東京中央区の)晴海グランドホテル (1999年<sup>194</sup>)、川崎グランドホテル (1999年<sup>195</sup>)であるが、そのピークは、最初の東京オリンピック開催の1964年から、1970年の大阪万博、1972年の札幌オリンピックの前後、そして1980年代のバブル期を

- 
- 179 九州・筑後市の船小屋温泉にて、1886年に開業した旅館「掬翠」に遡るが、のち創業者の樋口信太郎の名を冠した「樋口軒」となり、1987年にグランドホテルとしての改築・改名が行われた。ホテル樋口軒「ごあいさつ・会社概要」<https://www.higuchiken.co.jp/greeting/> (2022年9月17日閲覧)
- 180 「広瀬商事、鳴門のホテル6月3日に起工—県下最大、63年6月完成。」『日本経済新聞』四国版、1987年6月2日、p. 12.
- 181 るるぶトラベル「根室グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/kushiro/nemuro-grand-hotel?cid=1839115> (2022年9月17日閲覧)
- 182 1989年に改築。るるぶトラベル「小山グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/sano/oyama-grand-hotel?cid=1839115> (2022年9月18日閲覧)
- 183 「南那須観光、ゴルフ場隣にホテル建設。」『日経産業新聞』1987年12月24日、p. 4.
- 184 るるぶトラベル「交通立地最高の宿 秋田県湯沢グランドホテル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/yuzawa-shi/yuzawa-grand-hotel-akita?cid=1839182> (2022年9月18日閲覧)
- 185 2009年に閉業し、2015年までに解体、跡地には高齢者向け施設が建った。「小樽の丸井今井跡地、メディス取得、サービス付き高齢者住宅に。」『日本経済新聞』北海道版、2013年2月23日、p. 1.
- 186 「阿寒グランドホテル、網走グランドを買収—知床への観光客取り込む。」『日経産業新聞』2006年5月30日、p. 27.
- 187 1992-2002年に帝国ホテル系の傘下となり「ザ・クレストホテル津田沼」として営業、再び2020年に新たな名称「ベッセルイン京成津田沼駅前」のホテルとして復活した。千葉県北部のホテル&旅館「ベッセルイン京成津田沼駅前」<https://tokyo.mport.info/inn/chiba/funabashi-narashino/vessel-inn-keisei-tsudanuma-ekimae.html> (2022年9月18日閲覧)
- 188 2008年に「奥入瀬溪流ホテル」と改名され、2014年からは、同名のまま星野リゾート傘下となった。「三沢奥入瀬観光、ホテル名称を変更。」『日本経済新聞』東北版、2008年2月6日、p. 2; 「青森・十和田 (10) 奥入瀬のホテル再生—魅力発信へ毎週会議 (ふるさと再訪)」『日本経済新聞』夕刊、2014年9月20日、p. 5.
- 189 やど日本「八尾グランドホテル」<https://www.ryokan.or.jp/inn/96397> (2022年9月17日閲覧)
- 190 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 302.
- 191 Ibidem.
- 192 るるぶトラベル「浜名湖わんわんパラダイスホテル (旧: 浜名湖グランドホテルさざなみ館)」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/hamamatsu/hamanako-wanwan-paradise-hotel?cid=1839184> (2022年9月18日閲覧)
- 193 HMI Hotel Group「会社情報」<https://www.hmi.co.jp/corp/corporate/history.html> (2022年9月17日閲覧)
- 194 2018年、「ホテルフクラシア晴海」と改名。2022年からは運営会社も変わり、「L stay&grow 晴海」と改名された。Karakami Hotels & Resorts「HISTORY 沿革」<https://www.karakami-kankou.co.jp/corporate/history/> (2022年9月15日閲覧)
- 195 2012年にカラカミ観光が売却し、閉業。Karakami Hotels & Resorts「HISTORY 沿革」<https://www.karakami-kankou.co.jp/corporate/history/> (2022年9月15日閲覧)

最後にこの流行は去っていったことがわかる。そしてそのほとんどが、増改築によって往時の姿を残しておらず、改名されたり、ときには閉業・解体されてしまったりして、当時のグランドホテルという屋号を保持したまま現存している事例はあまり多くない。その一方、戦前に建ったヨーロッパ各地のグランドホテルと称するホテルは、当時の外観を今も保全し、町を代表する高級ホテルとしての格式を保ち続けているか、地方のグランドホテルは閉業しても高級住宅などの用途変更がなされ、保全活用されている事例が多く、日本のように解体されることは稀である。

## 2-6. 「ニュー」を含むホテル名

高度経済成長期 1960～70年代の日本のホテルの屋号には、「ニュー」という語を含むものも多い。ヨーロッパでは、「ニュー」を付けるタイプのホテルの命名は少数派である。前節で取り上げた1840年に刊行された英国人向けのイタリア旅行案内書では、当時有名であった温泉町カステッラマーレ デイ・スタビア Castellamare di Stabia のホテル「New Hotel Royal」の事例が1件紹介されるのみである<sup>196</sup>。20世紀初頭のナポリには「ニュー」に相当する伊語「Nuovo」を屋号に含めたホテルに、Hotel Nuova Bella Napoli や Albergo Nuova Napoli が確認できるが、いずれも高級路線ではなく、規模が小さく知名度の低い宿である<sup>197</sup>。日本の大型ホテルの屋号によくある「ニュー」の普及は、木造旅館を鉄筋コンクリートで建て替えたり、老朽化したホテルを新築・改築したさいに、「ニュー」を付けて改名することによるもので、スクラップ & ビルドを慣例とする日本でよく好まれた命名パターンである。前節では、木造旅館が鉄筋コンクリートに建て替えたさいに「グランドホテル」と改名することがあることに触れたが、それと同様に、以前あった建物を解体して新築したホテルという意味で、「ニュー」を含む屋号がよく選ばれるようになったのだ。たとえば横浜のホテル「ニューグランド」は、前節で述べた横浜の「グランドホテル」が関東大震災で失われたのを復興させるため、新築したことから屋号に「ニュー」が加わったものである（図3）。また昭和の時代にあっては、「ニュー」という英語を使うことがお洒落なこととされ、「ニュー」と調和させるために旅館時代の屋号の漢字部分もカタカナ表記にして、すべてカタカナ名にする屋号も増加した。たとえば後で列記する、宇都宮の板谷旅館（1882年創業）が、1972年の新築を機に「ホテルニューイタヤ」と改名したり<sup>198</sup>、網房総・館山の貴久屋旅館（1944年創業）が、1974年に新築・改名して「ホテルニューキクヤ」となったりする具合である<sup>199</sup>。

今となっては「ニュー」が付くホテル名は、昭和レトロなホテルの象徴のようなノスタルジッ

196 Jousiffe, op. cit., 1840, p. 133.

197 Kawamura, op. cit., 2017, p. 226, p. 298.

198 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 149.

199 Ivi, p. 134.

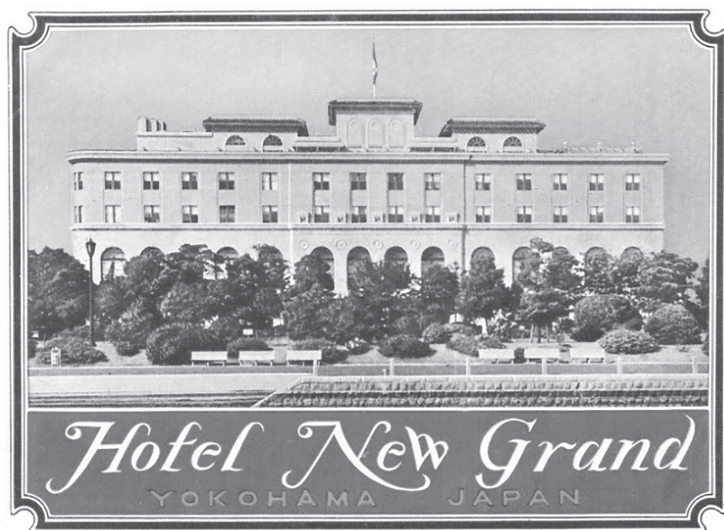


図3 横浜のホテルニューグランドの1940年代の靴ステッカー

クな響きがする。老朽化して解体されたホテルも多く、数の割に現存しているものが少なく、以下列挙するものは氷山の一角に過ぎないが、時代の流れと傾向を掴めるように、主な事例だけに絞って以下時系列順に所在地名とともに挙げておく（図4）。

（旭川の）ニュー北海ホテル（1951年<sup>200</sup>）、（名古屋の）ホテルニューナゴヤ（1956年<sup>201</sup>）、（広島県福山市鞆の浦の）ニュー錦水国際ホテル（1958年<sup>202</sup>）、（東京の）ホテルニュージャパン（1960年<sup>203</sup>）、ニュー長崎ホテル（1960年<sup>204</sup>）、（鳥羽湾の）ホテルニュー美しま（1962年<sup>205</sup>）、（岡山の）ホテルニューオカヤマ（1962年<sup>206</sup>）、（苫小牧の）トマコマイホテルニュー王子（1963年<sup>207</sup>）、（東京の）ホテルニューオータニ（1964年<sup>208</sup>）、（熱海の）ニューフジヤホテル（1964年<sup>209</sup>）、（長崎県平戸の）ニュー平戸海上ホテル（1964年<sup>210</sup>）、（福岡の）ホテルニューハカタ（1964年<sup>211</sup>）、ホテルニュー高知（1964年<sup>212</sup>）、（淡路島の）ホテルニューアワジ（1965年<sup>213</sup>）、（阿寒湖の）ニュー阿

200 1924年の創業時は「北海ホテル」であったが、1951年にニュー北海ホテルとして改築・改名した。ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 89; 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 134。

201 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 246。

202 「キンスイ・リゾート、瀬戸内一望の大浴場―「ニュー錦水」に來春完成。」『日経産業新聞』1984年10月27日、p. 8。

203 「日本の都市ホテル16」『新建築』1964年11月号、pp. 180-198; ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 200。1982年の火災で閉業、のちに解体された。

204 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 371。

205 1973年に増築された。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 196。

206 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 315。

207 苫小牧に王子製紙が設立させたホテルである。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 131。



ニュー塩原（1969年以前<sup>220</sup>）、（熱海の）ホテルニューアカオ（1970年<sup>221</sup>）、（神戸の）ニューポートホテル（1964年<sup>222</sup>）、（岡山県美作湯郷温泉の）ニュー福栴ホテル（1970年<sup>223</sup>）、ホテルニュー京都（1972年<sup>224</sup>）、（青森県薬研温泉の）ホテルニュー薬研（1970年<sup>225</sup>）、（宇都宮市の）ホテルニューイタヤ（1972年<sup>226</sup>）、（宮城県松島温泉の）ホテルニュー小松（1973年<sup>227</sup>）、（北九州市小倉の）ホテルニュー田川（1973年<sup>228</sup>）、ニュー山中湖ホテル（1973年<sup>229</sup>）、（京都の）ホテルニュー日昇（1974年<sup>230</sup>）、（広島の）ホテルニューヒロデン（1974年<sup>231</sup>）、（館山の）ホテルニューキクヤ

---

214 Karakami Hotels & Resorts 「HISTORY 沿革」 <https://www.karakami-kankou.co.jp/corporate/history/>（2022年9月15日閲覧）

215 1989年に改築された。るるぶトラベル「ホテルニュー大新」 <https://www.rurubu.travel/hotel/japan/choshi/hotel-new-daishin?cid=1839184>（2022年9月18日閲覧）

216 1996年に改築された。近年、「満ちてくる心の宿吉夢」と改名された。るるぶトラベル「満ちてくる心の宿吉夢」 <https://www.rurubu.travel/hotel/japan/onjuku/kichimu?cid=1839115>（2022年9月18日閲覧）

217 2003年に、デザインホテル系のリノベーションを施したホテル「CLASKA」として再生したが、2020年12月20日に閉業した。ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 156; 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 289; LIXIL Renovation forum 「Renovation Archives [036] 都市デザインシステム：ホテル《CLASKA》」 <https://forum.10plus1.jp/renovation/archives/035claska/035-summary.html>（2022年9月18日閲覧）

218 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 377; 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 289.

219 1954年創業の旅館「田園」に遡り、1969年に「ホテルニューハワイ」として新築・改名された。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 157. 近年「海のホテル」と改名したが、現在は閉業中である。

220 前身は、1952年創業の「塩原東京ホテル」で、現在は大江戸温泉物語の傘下となっている。高浜憲司「大量販売成功店訪問 (3) 〈ホテルニュー塩原〉」『月刊ホテル旅館』1969年12月号、pp. 167-171; 「岡部ホテルグループに金融支援 温泉街再建も前進 = 栃木」『読売新聞』朝刊、2005年3月4日、p. 32. 現在は外資系ホテル傘下で「ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ」となっている。

221 2011年にホテルとしての活用を停止した。「熱海のアカオ・スパ&リゾート、昭和のイメージ、払拭へ、観光庭園に足湯設置、施設の見直し進む。」『日本経済新聞』静岡版、2022年2月9日、p. 6.

222 日建設計工務株式会社・清水建設株式会社「神戸ニューポートホテル」『建築と社会 45 (4)』1964年、pp. 11-15; ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 370.

223 1959年創業の旅館「福栴」に遡り、1970年に増改築し改名された。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 234.

224 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 291.

225 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 135.

226 1989年に改築されている。るるぶトラベル「ホテル ニューイタヤ」 <https://www.rurubu.travel/hotel/japan/utsunomiya/hotel-new-itaya?cid=1839115>（2022年9月18日閲覧）

227 1993年に改築され、現在の屋号は「小松館 好風亭」である。るるぶトラベル「小松館 好風亭」（2022年9月18日閲覧） <https://www.rurubu.travel/hotel/japan/matsushima/komatsukan-kofutei?cid=1839115>

228 ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 469; 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 292; 「ホテルニュー田川」は1916年に創業した老舗であったが、2000年に閉鎖となり、「ホテルニュータガワ」として再生された。その後2005年に改築され、2018年から「アートホテル小倉 ニュータガワ」に改名・リニューアルされた。

229 朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 180.

(1974年<sup>232</sup>)、(秋保温泉の<sup>あきう</sup>) ホテルニュー水戸屋 (1974年<sup>233</sup>)、(佐渡島の<sup>しいさき</sup>椎崎温泉の) ホテルニュー桂 (1974年<sup>234</sup>)、(千葉県城崎海岸の) ホテルニューナカヤ (1974年<sup>235</sup>)、(佐渡島の) ホテルニュー喜八屋 (1976年<sup>236</sup>)、(鬼怒川温泉の) ホテルニュー岡部 (1978年<sup>237</sup>)、(山口市の) ホテルニュータナカ (1981年<sup>238</sup>)、(千葉みなとの) ホテルニューツカモト (1983年<sup>239</sup>)、(福井の) ホテルニューユアーズ (1986年<sup>240</sup>)、(大阪心斎橋の) ニューオーサカホテル (1987年<sup>241</sup>) などであるが、閉業・解体されて現存しないものが少なくない。

以上挙げたものの多くは、経営者の名前や地名、旅館時代の屋号に、「ニュー」が組み合わされたものである。以下は「グランド」と「ニュー」の両方を含む事例を挙げてゆくが、地名を屋号に冠していないものは、その所在地名とともに記載する。

(横浜の) ホテルニューグランド (1927年<sup>242</sup>)、(山中湖畔の) 富士ニューグランドホテル (1936年<sup>243</sup>)、(秋田市の) アキタニューグランドホテル (1961年<sup>244</sup>)、別府ニューグランドホテル (1965年<sup>245</sup>)、(九州の) 都城ニューグランドホテル (1970年<sup>246</sup>)、青森ニューグランドホテル (1970

---

230 創業は1945年の旅館「日昇館」だが、改築年の1974年におそらく「ホテルニュー日昇」と改名された。Travel.mimo 国内予約「ホテルニュー日昇」<http://www.travel-mimo.com/j/stay/Q/qc/hgs/00005557/index.html> (2022年9月18日閲覧)

231 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 293.

232 現在は「ニューきくやホテル」と改名されている。

233 江戸時代300年前に遡る旅館で、1974年に「ホテルニュー水戸屋」として増築・改名した。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 144.

234 明治初期の舟宿の桂屋旅館に遡るが、1974年に「ホテルニュー桂」として改築・改名した。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 171.

235 宿中屋女将の湯処だより「今は昔昭和49年ホテルニューナガヤオープン!」2020年4月19日配信、<https://nakayahotel.com/diary/okaminoyudokorodayori/2020/04/19/5362/> (2022年9月18日閲覧)

236 1905(明治38)年創業の旅館に遡り、1976年に新館増築した。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 172.

237 「ホテル建築の極限「ホテルニュー岡部」誕生」『財界ふくしま』1978年8月号、pp. 168-169;2009年に「きぬ川ホテル三日月」、2020年に「日光きぬ川スパホテル三日月」となった。「鬼怒川ホテルニュー岡部、三日月グループに、塩原などはミドルウッド。」『日本経済新聞』栃木版、2009年9月1日、p. 42.

238 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 296.

239 Ivi, p. 297; 2020年より運営が替わり「ホテルテトラ千葉みなと駅前」と改名された。「千葉のホテル「ニューツカモト」、函館の同業が承継、1日開業。」『日本経済新聞』千葉版、2020年7月1日、p. 39.

240 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 299. 2006年に閉業し、改装後の翌年、「ランドホテル福井」と改名された。「JR 福井駅西口、ランドホテルがきょうオープン。」『日本経済新聞』北陸版、2007年2月15日、p. 8.

241 心斎橋ニューオーサカホテル「会社概要」<http://memory.shinsaibashi-noh.jp/topics/cinfo.html> (2022年9月18日閲覧)

242 関東大震災で倒壊したグランドホテルの後継として誕生した。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 167.

243 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 194.



## 「グランド」や「ニュー」が付くホテル名の日欧比較

年<sup>247</sup>)、定山溪ニューグランドホテル (1971年<sup>248</sup>)、金沢ニューグランドホテル (1972年<sup>249</sup>)、(金沢の)ニューグランド・イン (1976年<sup>250</sup>)、妙高ニューグランドホテル (1976年<sup>251</sup>)、岡崎ニューグランドホテル (1982年<sup>252</sup>)、八王子ホテルニューグランド (1985年<sup>253</sup>)、名鉄ニューグランドホテル (1985年<sup>254</sup>) などであるが、「グランド」が入ると、やはり高級路線が加味された事例も散見される。

(つづく)

### 【謝辞】

本研究は、2021年度跡見学園女子大学特別研究助成費を受けて実施された研究成果の一部である。ここに記して心より謝意を表します。

### 参考文献

#### (和文)

朝日新聞社編『日本の宿—Where to lay your head in Japan』朝日新聞社、1977年

河村英和『『ロイヤル』や『国際』が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(1)』『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第34号、2022年、pp. 146-157

河村英和「19世紀から20世紀初頭におけるヴェネツィアのホテル建築の変遷について—ヴェネト・ビザンチン様式の歴史的パラッツォ転用からグランドホテル様式建設まで」『日本建築学会計画系論文集73(629)』、2008年、pp. 1637-1642

木村吾郎『日本のホテル産業史』近代文芸社、1994年

---

244 2003年に閉業、2004年に解体された。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 137; 川端たぬき「皇室御用達の宿・アキタニューグランドホテル」『二〇世紀ひみつ基地』2007年9月23日配信、<http://20century.blog2.fc2.com/blog-entry-347.html> (2022年9月16日閲覧)

245 城島高原の歴史年表、<http://uratourism.starfree.jp/onsendo-kijima.htm> (2022年9月17日閲覧)

246 1948年創業の「あかつき食堂」に遡り、1951年に旅館「あかつき荘」となり、1970年に都城ニューグランドホテルとして改築・改名。朝日新聞社、前掲書、1977年、p. 260.

247 ホテルレストラン誌編、前掲書、1971年、p. 74.

248 HAMANO HOTELS「温故“湯”新~創業の歴史と新たな夢の軌跡~」<https://www.hamano-hotels.co.jp/onkoyushin/story-09/?> (2022年9月17日閲覧)

249 2002年に改築された。るるぶトラベル「金沢ニューグランドホテルプレステージ」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/kanazawa/kanazawa-new-grand-hotel?cid=1839184> (2022年9月18日); ホテルレストラン誌編、前掲書、1972年、p. 273; 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 291.

250 「大和百貨店グループ、51年中に2ホテル完成、ホテル事業拡大へ。」『日経産業新聞』1976年8月23日、p. 8.

251 Ibidem.

252 日本ホテル協会、前掲書、2009年、p. 296.

253 Ivi, p. 298.

254 Ibidem.

『建築写真文庫 62 ホテル』彰国社、1958年

澤護『横浜外国人居留地ホテル史（敬愛大学学術叢書3）』白桃書房、2001年

『千代田区史 下巻』千代田区役所、1960年

『日本ホテル協会創設100年史』日本ホテル協会、2009年

ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1972年版』オータパブリケーションズ、1971年

ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1973年版』オータパブリケーションズ、1972年

(欧文)

Andreas Augustin, *Meet you at Paddington: the Great Western Royal - Hilton London Paddington: the Story of the First Palatial Terminus Hotel*, Famous Hotels, Vienna, 2002

An English Resident, *The Indispensable English Vade Mecum, Or Pocket Companion to Paris*, English and American Library, Paris, 1839

Denby, Elaine, *Grand Hotels*, Reaktion Books, London, 1998

Eiselein, Giuseppe, *Vita di Giovanni Winckelmann*, in *Opere di G.G. Winckelmann*, Tomo I, Giachetti, Prato, 1830

*Evans's Supper Rooms, Covent-Garden. Selection and Words of Madrigals, Glees, Choruses, Songs, &c.*, Covent Garden Hotel, London, 1856

*Il sepolcro di Winckelmann in Trieste*, Alvisopoli, Venezia, 1823

Jousiffe, *Guide A Road-book for Travellers in Italy*, Second Edition, Meline, Cans and Co., Brussels, 1840

Kawamura, Ewa, *Architettura alberghiera in Italia: dalla trasformazione degli edifici storici alla costruzione dei grand hotel*, in AA.VV., *Architettura per l'ospitalità in Italia tra Ottocento e Novecento* a cura di Adele Fiadino e Guido Zucconi, Gangemi Editore, Roma, pp. 17-30

Kawamura, Ewa, *Storia degli alberghi napoletani. Dal Grand Tour alla Belle Époque nell'ospitalità della Napoli «gentile»*, CLEAN Edizioni, Napoli, 2017

*Nuovissima guida del viaggiatore In Italia*, Ferdinando Artaria, Milano, 1845

Pevsner, Nicolaus, *A History of Building Types*, Princeton University Press, Princeton, 1976

Planta, Edward *A New Picture of Paris; or, the Stranger's Guide to the French Metropolis*, Samuel Leigh, London, 1827

*Rules and Regulations of the Hotel and Tavern Keepers' Provident Institution for the relief of necessitous and aged members*, H. Silverlock, London, 1840

Schmidt, Michael, *Palast-Hotels. Architektur und Auspruch eines Bautyps 1870-1920*, Gebr. Mann Verlag, Berlin, 1982

Watkin, David, *The grand hotel style*, in *Grand Hotel*, London-Melborne, 1984, pp. 13-25

## 「グランド」や「ニュー」が付くホテル名の日欧比較

### 〈雑誌記事〉(時系列順)

清水建設福岡支店「長崎グランドホテル」『新建築』1962年8月号、pp. 150-151

「増設計画中の章月グランドホテル」『東邦経済』、1967年8月号、p. 119

「摩周グランドホテル」『東邦経済』1967年8月号、pp. 120-121

「ドームと塔にスペイン風の意匠—平砂浦グランドホテル」『月刊ホテル旅館』、1968年7月号、pp. 9-13

高浜憲司「大量販売成功店訪問 (3) 〈ホテルニュー塩原〉」『月刊ホテル旅館』1969年12月号、pp. 167-171

ブルドーザー工事「宝塚グランドホテル = TAKARAZUKA HOTEL」『近代建築』1970年2月号、pp. 105-108

「島原グランドホテル〈島原〉」『月刊ホテル旅館』1970年7月号、pp. 33-35

五井建築設計研究所「北陸グランドホテル」『近代建築』1971年7月号、pp. 118-120

「鷺羽グランドホテル〈鷺羽山〉」『月刊ホテル旅館』1971年7月号、pp. 24-28

熊田工務店「湯村グランドホテル」『近代建築』1972年3月号、pp. 116-117

合建築事務所「鷺羽グランドホテル」『近代建築』1973年2月号、pp. 106-107

「グラビアー古牧グランドホテル (三沢市)」『月刊ホテル旅館』1974年2月号、pp. 36-39

中根滋「設計建設プロセスとインテリアの特色〈皆生グランドホテル〉」『月刊ホテル旅館』1974年6月号、pp. 55-57

「ホテル建築の極限「ホテルニュー岡部」誕生」『財界ふくしま』1978年8月号、pp. 168-169

吉成武「〈ホテル東京オータニ〉の設計とその問題点」『公共建築』1964年4月号、pp. 65-67